
性転換して転生した俺のほのぼか日記。

悠架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

性転換して転生した俺のほのぼか日記。

【Nコード】

N7203E

【作者名】

悠架

【あらすじ】

自宅の階段から落ちて死んだと思ったら生まれたての赤ん坊（）になってましたビックリ。みたいな少年のお話。ほのぼかっているのは「ほのぼの」と「ばか」の略さ。対比は3：7だけど。

第1話：俺、生誕。特典として性転換アーンド転生がきます。

ファンタジー、恋愛、エロ、グロ、ホラー、ミステリ。

とりあえず多種多様なジャンルの小説、漫画を読みまくっていたおかげで性転換アーンド転生という言葉には聞きなれていたのが、まさか自分が体験することになるうとは誰が思うのだろうか。

ていうかぶっちゃけ転生なんて前世を忘れなかっただけじゃないの、とか思っていた自分は馬鹿だと思う。死神にも閻魔様にも会わずして生まれ変わるとか、俺的にはナイし。

ああ、自分の死んだ瞬間なら全く持つてありがたくない事にはつきりと覚えていた。馬鹿かお前年号とか覚えられないくせに変なところで才能発揮すんなよ俺の脳味噌ノンストップみたいな。

これで強盗に殺されたとか痴女に犯された後首を絞められたとかだつたら物語の主人公みたい悲劇のヒーローって感じてになれたのにあ、やっぱりそんな死に方は嫌だ。

俺、自分んちの階段で転げ落ちてぼっくり逝きました。いやあ、せめて事故死が良かったかな。意外と痛かった…。

ああ、知人は心配してるかな。

家族は・・・そついや、俺が家の家事担当してたからな。母さん、家事とか苦手な人だったし。姉貴は面倒くさがりだったし。つーかさ、姉貴、アレで結構器用なのになんで家事を俺に押し付けたんだよ？父さんの会社は倒産寸前…いやいや、ダジャレじゃないから。本気と書いてマジと読むから。若干古い？寒いギャグを言うヤツよりはマシだろう。そついや幼馴染の好物は親父ギャグだ。漫画に人はいるよな、そついうやつ。

話が横道に逸れたけど、それは俺がらしくもなく混乱しているからだと思う。

だつてさ、俺、今生まれたての赤ん坊（ ）だぜ？やってられるか！

頭イテ一な。あ、階段から落ちたからか。そんなことを頭の中で繰り返しながら薄れていく意識の中で願った。来世では、知的美人で優しい母上と鞭を持たない飴みたいな父上が欲しいです、神様。

目が覚めたら目の前に広がるは、緑溢れる木々、とかじゃなくて仲睦ましい男女の姿。どちらも結構端正な顔立ちで、しかも俺に向かって微笑んできてくれるもんだからちよっぴり嬉しかったりしたが、彼女と別れたばかりの俺は2人のラブイオーラにぶっちゃけムカつきましたまる。

「廉途れんと、目が覚めたみたい」

「ああ、そうだね。それにしても、随分と大人しいね？そう思わないかい、伊織いおり」

「女の子だもの。元気な子もいいけど、大和撫子もいいんじゃない？そっちのほうで育児も楽そうだし」

おい、なんか最後の腹黒い台詞だったぞ。彼氏とか夫っぽい男！そんな「僕はどんな君でも愛せるよ、いや、むしろ望んで愛すよ」みたいに感受するなよ。いつかそれが仇になるんだぞ！いや、実体験じゃないけど。

男のほうは廉途。女のほうは伊織というらしい。

男もなかなかだが、女は滅茶苦茶美人である。うっわあ、知的超絶美女。もろにタイプである。

略奪愛ってか横恋慕…も、良いかもしれないとか一瞬思ってしまう

ほどだ。でも2人のバカップルオーラを見て一気にそんな気持ちも冷えた。

(ん？てか、『女の子』って言ったか・・・？)

「うふふ・・・。貴女は今日から『美羽』よ？」

「よろしくね。僕らの可愛い娘」

そこでようやく気づきました。なんか視線低すぎね！？

赤ん坊かっこ雌。『藤乃美羽』というらしいです。ふじのみう、って読みます。よろしく！

第2話：だって男の子なんだもん！

始めましての方も二度目ましての方もこんにちは！もしくはこんばんは！もしかするとおはようかな！？

妙なテンションでやっておりますのは、俺、藤乃美羽^{ふじのみう}。母の血を受け継いだおかげで将来が楽しみな美女である（いや、まだ赤ん坊ですけどね！）。自宅の階段で転げ落ちてうっわあドクドクしてんじやねーかみたいなのりで死に到る。気づいたら赤ちゃんの子となっていました。前話からクドイけど、性転換アーンド転生、みたいな？。

あの衝撃的な転生を成し遂げた後、落ち着いてきた俺は回らない舌で叫んでやった！（とったどー！じゃなくて、）せめて男の子が良かったんですけど！え、でも結局は泣き声にしかならなくて二人目の母君（まことに麗しい）と父君（優しそう）の微笑ましそうな目で見つめられただけでした。やめるよそんな俺の実年齢は赤ちゃんとちゃうんやで！思わず関西弁になるほど2人は美しかったです。排便とかどうしよう……。俺、元男なんですけど。

「うーあ、」

「おや……。目が覚めましたか？」

皆様御機嫌よう。なーんて言いたくなってきた俺。昼寝を終了させると麗かな微笑が……。っ！

えー、もう分かっていらっしやる方もいるやもしれませんが、俺、お嬢様です。至りつくせり（て、どういう意味だっけ？）。ただっ広い城みたいな豪邸で不自由なく暮らしております。ちなみにこの好青年の名は柚原智久^{ゆはらのともひさ}さん。通称、トモさん。いや、俺が今勝手に

決めました。俺専属の使用人らしい。マジで！！（やべえ俺転生ラッキーとか思いはじめちゃったよすまそ前の家族！）

「うーあ」

「お腹が空きましたか？もうすぐ昼食の時間ですので、少々お待ちください。美羽様」

赤ん坊相手にも敬語を使つてくださるトモさん・・・素敵つす！この人絶対モテるだろ、羨ましいぞ。さりげ美形なんだもん！（俺つてば何言ってるんだらう、段々意味わかんなくなってきた）

それにしても、退院したばかりだから（この言い方だと何だかどっか悪かったみてえだけど、違うから！・・・って俺誰に言ってるの？）まだ揺り籠でゆるら状態。実は手を伸ばすにも一苦労なんです。冷静になつてから考えたことなんだが、まだ離乳前だから俺つてお乳飲まなきゃあかんですか？そして入院中、二度目の母君の豊満な二つの山と間にある谷を見てしまいました。自分の排便気にする前にこつちを気にしようよ。やばかったつす！天国逝きのかぼちゃの馬車が見えるほど混乱してたつす。花畑通り過ぎたつす。（・・・それもう死んでね？）

なーんて、若干期待（下心込み）（しょうがねえじゃん！俺も元男だぜ）してたんですけど、現実上手くはいかないんですよーと生後一年も経たずして実感した美羽ちゃんであつた（まるこちゃんのナレーション風）（え、似てないって？ばっか、許せよな！俺つてば美少女なんだぜ）。

こんな豪邸に住むくらいだから仕事あるに決まってるじゃん。トモさんが言うには父君は大企業の社長で、母君は有能弁護士。そんな2人の娘がこんなんの良いのでしょうか。

「お嬢様、ミルクで御座います」ありがとよ、トモさん。

第3話：美羽ちゃん（俺）のナ・イ・ト（はーと）

はろう。俺、生誕してから約8ヶ月経ちました。若干ハイハイしはじめてます。いやあ、イイ運動になりますなあ。時間あるたびにだっ広いお屋敷を腹ばいになってよちよち・・・もう羞恥心ってなんですか？みたいな。最初の頃は自己嫌悪に陥ったりしたよ・・・だってハズいんだもん！

そういえば俺、羞恥心って読めなかったんだよ。国語の時間に『さしゅうしん』って読んでクラスメイトから爆笑された記憶あるぞ。

そこまで笑わんでもよかるーに！

「ぐるる・・・」

さて、皆さん『現実逃避』って言葉、ご存知ですか？

黒く美しいボディーライン。光を反射している毛並み。鋭い瞳はギリギリ輝いてまるで捕食者のよう・・・。いやあん、ステキね、黒はーと豹まいく。

こんだけ身形良いなら、多分この家で飼ってるんでしょうけど？富豪だからといって何て野蛮な・・・って！何キャラやねん俺エ！！「がうつ！」

おいおいなんだよ僕ちゃま食ってもイイことなんて1つも無いぞ黒豹め！食ったって将来のアイドルの卵を潰すだけだよ！お前は二モの兄弟の卵を食った大魚か！あああなにいつてるのか自分でも分からない！！

なんか俺、自分が苦勞人のように思えたきた・・・。はーるよーとーおーきはーるよー、まぶたあーとーじれーばそーこにー。ーミン・・・。

・・・おお？なんか、こいつ、こつ、猫がフーツに威嚇する時みたいに腰引かせてない？うーん、今にも襲い掛かってきそうな・・・、

「ガオオオオオツ」

「オギヤアアアアア！？」

ぎゃあああああつ！ちょ、助けて神様仏様トモさん！（・・・・・・
・あれ、なんでトモさん出てきたんだ？）

自分の身体を支えるのも一苦勞なハイハイ赤ちゃんに豹からの攻撃をかわせるとでも！？無理だろ！

メチャクチャ速いスピードで眼前に迫ってくる黒豹。けれどそれは、俺からみたらまるでスロー再生しているかのように

（というか、前回は階段で死んで今回は黒豹に襲われて死ぬのか？俺）

さよなら、知的美人な母君（と優男っぽい父君）！

べろり。

「・・・・・・・・・・。」

べろん。

「・・・うー？」

「がっっ？」

ぺろぺろぺろ。

「（え、どうなったの俺）あうー、う？」

「（ぺろぺろ）がっっ！」

いや、あの、チヨー（ ）べたべたするんですけど。

「ぐるる・・・」

泣き声とは裏腹に黒豹は俺に身体を摺り寄せてくる。しかもなんか気持ち良さそうだ。あれか、美羽ちゃん（俺）のもちもち肌に惚れたか！

バタン！

大きな音を立ててドア（高級そう）が開いた。俺が視線を向けると同時に、俺を舐めまくってた黒豹もそちらを向く。いや、でもまだ距離置かれた訳じゃないから重いつちゃ重いんだけどね！（うふふ）
「お嬢様！？どうかいたしました、・・・か？」

さっきの俺のチヨー（ ）かっこ悪い泣き声を聞いて駆けつけてきてくれたんだと思うんだけど、なんか料理中だったらしい割烹着姿のトモ（柚原智久）さん。なんで割烹着なんだろう・・・似合っただけどさ！

でもなんか、こーいうのってエプロンじゃね？ギャグ狙いだとしてもフリフリエプロン・・・でもやっぱり似合っただけどさ、羨まし

いほどに美青年だから！うーん、でもこの屋敷って外国の宮殿っぽいっか城っつーか・・・洋風だし。背景とあってないよな。・・・ああ、美青年なら背景は薔薇になるって？何年前の少女漫画だよ。

・・・ええと、話を戻しましょう。

どうやら黒豹に懐かれたらしい（なぜ？）俺。そんな麗しき（そこ！何か言った？）俺を呆然と見つめる美青年な俺専属使用人、トモさん。

どうにか我を戻すよう誘導したいのだが・・・俺、今赤ん坊だから会話できないんだよ。

どうしようか、と悩んでいると、トモさんがぽつりと呟いた。

「まさか、ナイトが人に懐くなんて・・・」

ありきたりな展開ですな！

そんな漫画にありそうなネタが現実起こっちゃうなんて・・・。なんか俺、主人公みたいじゃない！？・・・あ、今は美羽ちゃんだからヒロインか。

ていうか、この黒豹の名前はナイトっていうのか？騎士っすか。かっけー。うん？じゃあ、あれか、このまま行けば（どう行けば？）

このナイトくんは俺の騎士？みたいな！！（笑）

「（・・・（笑）じゃねえよ俺）ううー、あう？」

「がっ？」

トモさんがなかなか自分の世界から戻ってきません。

暇なのでナイトと目を合わせて首を傾げあいました（結構力ワイイじゃないかナイト・・・ッ）。

「があう!」相変わらず重いままなんだけだな。

第4話：新たなキャラ現る！！の1）・・・続くのかよ

あれから。

地球に居座った宇宙人は銀河系全ての星を侵略し、世界制服）・・・あ、違う。正しくは世界征服）を成し遂げようとしている宇宙人に立ち向かうため、俺は仲間と共に宇宙船に乗って・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・。

まあ、そんなこんなで美羽ちゃんも二歳となったのですまる。

決して赤ん坊から成長していく過程を書くのが面倒くさかったからじゃないよ！

あっははははは（エンドレス）だって俺、マジメちゃんじゃん！？

・・・痛え！石投げないで！！

「あれ、みー嬢、トモは？」

「ともね、ないとのさんぽだよお」

「あちゃあ、じゃー今いねえんだ・・・みー嬢、お邪魔してもいい？」

「んん！いいとおもっよお」

・・・誰だ？

あつれ！誰だよホント！不法侵入者つすか！？

お、俺、もしかして犯罪の手助けをしちゃった？共犯者！？

あ、でもトモさんって言ったよな！知り合いか！知り合いか！（二度言う法則）

てゆーか『みー嬢』って誰だよ！？

・・・あ、俺か。美羽のみで『みー嬢』か。嬢・・・じょう・・・
・・・ジヨー！立つんだ、ジヨーオオオオ！！！（うぜえ）

「・・・何やってるんですか？お嬢様？」

・・・・・・・・・・・・・・・・（あはっ！）。

ええっと、なんかね！ジヨーから古畑にいつてね（なぜだ）！古畑のモノマネでこう・・・ファイティングポーズじゃなくて（闘つてどうすんだ）・・・こう！手をこうして！

・・・・・・・・・・・なんとなく分かるだろ！？

なんかこう！推理するポーズ！中津くんもマネしてたぜ！！（（（イケパラ）

そんなかんじのポーズで「ふーむ」とか言いながら推理してたらナイトを引きつれたトモさんが帰ってきてあれ俺ちよつとヒかれてる！？（ノンストップ）

みたいなあ！（これ言うつと戯言思い出す・・・分かる人いるかなあ、俺は人識くん好きだよ 何）

「あのね！ともにおきゃくさんきてたよ！」

呂律が回らないって悲しいね（切実）。

俺はあと何年こんな羞恥心（さしゅうしんじやないよ！しゅうちしんだよ！ヘキ ゴンじゃないよ！心の問題だよ！）を味わえばいいんだろう……。

しかもなんか口調がね？幼く変換されるんだよね？

「ダメだよ」って言おうとしたらね？「メツ、だよ」って言ったんだよ……耐えられない、俺には耐えられない……これならまだ姉貴共にパシられたほうが……って、

あー……姉貴、いないだった……。

いやいや、何シリアスになっちゃってんの！俺の長所は『ポジティブ』だけだって自他共に認められてんだよ！！言ってる悲しくなっただけだね！（あは）

「……どんなヤツでした？」

あれ、トモさんなんか黒い……（ヒイツ、寒気が……っ）

「んーとね、あかいひと！」

イコール、赤髪の人ってことっすよ。

「……今、どちらに？」

「なか！」

「ハア！？……いえ、すみません、お嬢様」

……いや、そんな取り繕うように笑われても、バックの黒いもやもやが……ね？

「ツチ・・・あいつ・・・」トモさんのキャラ崩壊が始まったって
いう、ね？

第4話：新たなキャラ現る！！の1）・・・続くのかよ（後書き）

ずっと更新してなかったら書き方を忘れてしまった・・・

苦情は心のうちだけにしといてください！

トモさん、腹黒い設定では無かったんだけどなあ・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7203e/>

性転換して転生した俺のほのぼか日記。

2010年10月15日01時40分発行